

教育大綱 基本方針—1

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら  
なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

I. 学校教育目標

子どもに夢を 保護者に安心を 地域に希望を

II. 昼生小学校研究主題

「ともに高め合う子どもの育成」  
～ 学習リーダーの育成を通して ～

研究主題設定の理由

(1) 児童の実態

全校児童が少なく、学年を超えて地域での子どもたち同士のつながりも強い。また、縦割り班活動などを通して他学年との交流も多く、児童会などを中心に学校をより良くする活動を考えたり、それを守ろうとしたりする規範意識の高い児童が多い。学級の友だちと仲良く遊んだり、協力して活動したりすることができたり、話すことが苦手な子の思いを聞き取ろうと耳を傾けたり、友だちが自力でできるようになるまで待ったりという優しい様子が見られる。縦割り班活動や通学班での登下校、地区児童会での活動では、高学年の児童が低学年の児童を世話する姿も見られ、人を思いやる気持ちが育ってきている。その一方で、思ったことをすぐに口に出してしまい、トラブルになったり、トラブルを避けるために本音を抑えてしまったりする姿も見られる。

授業においては、異学年合同授業および算数科複式授業の中で学習リーダーや上学年の子どもがペアやグループ活動において積極的に話し合いを進めることができる子どもが増えてきている。上の学年がリーダーシップを発揮し、上の学年が下の学年に今まで経験して得たコツなどの手本を示している姿が見られる。学習リーダーが授業を進行する場面では、子どもたちが主体的に自分の意見を述べたり、次の活動を考えたりしている。しかし、教師に促されることで、課題や活動、自主学習や家庭学習へ真面目に取り組むことはできるが、興味のあることや自分の課題をもち、主体的に取り組む子どもが少ない。児童向けの学校生活をふりかえるアンケートでは、「宿題以外に、自主学にとりくんでいますか?」という項目では、肯定的な意見の割合が低く、自分から学習課題を見つけ、主体的に取り組むことに課題が見られる。

## (2) 学校全体として子どもたちの目指す姿・つきたい力

### ○目指す姿

低学年から段階的に児童が自ら主体的に学習を進めていく力を身につけていく。単学年での授業並びに異学年合同授業においては、異学年の児童が互いにかかわりながら、あるいはそれぞれ学年別で、自分たちの力で学習を進めていく姿を目標とし、教師は必要に応じて指導を行う。児童の司会を中心とした主体的な学習の経験を重ねることで、学習課題の共有、見通し、課題の追究、ふりかえりという学びを進める力を身につけるようにしたい。

### ○つきたい力

- ① 学習進行力 (学習リーダー、学習の見通し・振り返り等)
- ② 聞く力
- ③ 話す力
- ④ 話し合う力
- ⑤ 書く力 (ノート、板書等)
- ⑥ 相互理解力

※今年度については、下線の力を重点として取り組む

## (3) これまでの取り組み、成果と課題

2年前より本校は、複式学級を有する学校となり、今年度は、2複式となった。それにもなって昨年度は、異学年での交流活動を通して学習リーダーの育成に取り組んだ。それにより、上の学年のリーダーシップが伸び、新たな考えに触れる機会が生まれたり、発想の幅が広がったりした。また、算数科複式授業においては、自分たちで授業を進行していこうとする姿が見られるようになり、めあてを自分たちで作り出し、学習の見通しをもつ姿も見られるようになってきた。一方、学習リーダーの育成を中心に、授業を子どもたちで進行していく、学習を深めていくことにはまだまだ課題が見られた。

## (4) 研究主題について

昨年度の成果と課題をふまえ、今年度はわたり授業を見据え、研究領域を算数科にしぼり、「子どもたちが自分たちの力で学習を進めていく力」をつけるための手立てについて研究を行っていく。その中で、「子どもたちが自分たちの力で学習を進めていく力」を、実際に授業を進める力である「学習進行力」、児童の進行する授業を支える「聞く力・話す力・話し合う力」、仲間づくりに関わる「相互理解力」とし、それぞれの力の育成のための具体的な手立てについて研究を行っていく。「学習進行力」に関わる部分では、学習リーダーの育成や児童主体のめあての作成・めあてを意識した振り返り等に取り組んでいく。また、「聞く力・話す力・話し合う力」に関わる部分では、話し方・聞き方のスキルの向上や話し合うための魅力ある課題設定等に取り組んでいく。さらに、「相互理解力」に関わる部分では、ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンターを活用や縦割り班活動等異学年交流等に取り組んでいく。

## Ⅲ. 研究領域 算数科



教育大綱

昼生小学校 学校教育目標

認め合い、  
つながり合う力

意欲的に学び、  
高め合う力

何事にもあきらめ  
ずに挑戦する力

昼生小学校 研究主題  
「ともに高め合う子どもの育成」  
～ 学習リーダーの育成を通して ～

夢の実現に向  
けて努力する力

「聞く力」  
「話す力」  
「話し合う力」  
の育成

複式教育の推進

学習進行力の育成  
学習リーダーの育成

相互理解力の育成 (仲間づくりに関わって)

人権教育の推進

認め合う学級づくり

縦割り班活動の充実

地域との連携

生活習慣の確立

家庭との連携

## 具体的な取り組み

### (1) 学習進行力をつける取り組み…学習リーダーの育成, 児童主体の学習のめあて設定・振り返り

#### 【取り組み内容】

- ・ 学習リーダー・フォロワーの役割を伝える・再確認
- ・ 日直を学習リーダーとする。(偏りなく学習リーダーの経験を積ませる)
- ・ 異学年合同授業のグループ活動では、グループリーダーの設定を行う。
- ・ 学習のめあてを学習リーダーが中心となり、自分たちで考え、設定させる。
- ・ 学習のめあてを意識した振り返り活動を行わせる。

### (2) 聞く力・話す力・話し合う力をつける取り組み

#### 【取り組み内容】

- ・ 「聞く」「話す」「話し合う」姿の各学年掲示し、目指す姿を意識させる。
- ・ 話し方・聞き方のスキルの向上
  - 「です。」「ます。」等最後まで話をさせる。
  - 目指す姿の意識づけ、声の大きさや速さ、相手を見て話す・聞く、感想や質問を考えながら聞く等
- ・ 話し合いを深めるための手立て
  - 話し合う魅力のある問題の設定、「やってみたい」「考えてみたい」と子どもが主体的に問題を解決できるような導入の工夫
  - 「〇〇さんと同じで・違って・付け加えて～」等相手の意見から「つなぐ」ことを意識させる
- ・ 問い返し等適切な教師の出場を設定する。
- ・ 「よむ×よむ」「マス×マス」を活用した授業

### (3) 相互理解力をつける取り組み(仲間づくりに関わって)

#### 【取り組み内容】

- ① 認め合う学級づくり
  - ・ 異学年で構成されていることを生かすために、上学年と下学年が互いに協力していくことを大切に経営を心がける。
  - ・ 下学年では、上学年に学びそれを活かしていく態度を育成する。
  - ・ 上学年では、下学年に配慮できるリーダーとしての姿勢をはぐくむ。
  - ・ SST(ソーシャルスキルトレーニング)・SGE(構成的グループエンカウンター)等の活用
- ② 学年・学校全体の目標に向かって協力する活動の推進
  - ・ 学年目標の設定と、目標をもとにした各活動の振り返り
  - ・ 児童会目標を基にした各活動の振り返り
  - ・ 目標をもとにした教師による価値づけ
- ③ 人権教育の推進
  - ・ 人権・いじめアンケート、「先生と話そう会」の実施および学級づくりに活かすための分析・交流
  - ・ 支援を要する児童の共通理解
  - ・ 教育相談の実施
- ④ 縦割り班活動の充実
  - ・ 児童会が中心になって、児童が主体的に企画・運営する。縦割り班編成を行い、高学年がリーダーになって下級生を引っ張っていけるようにする。  
【全校遠足・全校田植え・全校稲刈り・運動会・昼生っ子集会・全校あそび】
- ⑤ 異校や異校種との交流活動
  - ・ 児童が主体的に交流会の中での活動内容を考え、企画・運営する。  
【四小交流, オンライン交流, 保幼小交流】